

序文 金管楽器の進化とマウスピースの変遷

Johann Sebastian BACH (1685-1750) の時代のトランペット (コロノ・ダ・カッチャやナチュラルトランペット) は、長管の楽器でした。そのマウスピースは現在のものと比べリム内径が大きく、カップは半球状です。そして、その底にはバックボアにつながる穴が開いています。

1820 年代、バルブの発明により、まずホルネットが現在のような短管に移り、1900 年頃には、現在とほぼ変わらない楽器やマウスピースへと進化していきます。



1840 年頃のイングリッシュスライドトランペットのマウスピース。

【写真提供：浜松市楽器博物館】

平らなリム、半球状のカップなどの様子が理解できる。

1918 年、Vincent Bach 氏 (1890-1976) が 12 本のマウスピースを自作しました。しかし、幸か不幸か、彼としては同じ様に作ったつもりで 12 本には、寸法のバラツキがあったのです。その中の 1 本は、ある人には素晴らしいマウスピースでしたが、他の人にはそのマウスピースが最良では無く、別の 1 本が適していました。それは、作った本人ですら全く予想もしていない思い掛けない結果でした。

そしてこの経験から、Vincent はリム内径サイズとカップの深さをロジック化したのです。それまでの 1、2、3... だけだった「線」の品番構成に、カップの深さを表す A、B、C、D、E などのアルファベットを組み合わせ、「面」のラインナップを構築しました。当時は、マウスピースに「面」のラインナップという発想がまだ無いに等しい時代でしたから、画期的な出来事でした。

彼の作った解り易いロジックと、当時としては非常に卓越した品質を持った彼のマウスピースは世界中に広まり、90 年を経た現在、世界標準とも言える状況となったのです。

ただし、現実にはカップの深さやリム内径サイズなどがロジック通りになっていないものも存在しています。また、品番が違ってもリムが合わなくて使えないという場合もみられます。その種々のリム形状はたまたま Vincent が開発時に出会った人との相性が反映された結果なのです。実際、サイズが大きい程リムが薄くなるという傾向も見られますが、これは生産上の都合に依るもので、大きいサイズのマウスピースには薄いリムが良いということでは決してありません。しかし、このような問題があるにも関わらず、多くのメーカーは有名になった彼のマウスピースをそのままコピーし、同じようなものを提供しているのです。

BEST BRASS は Vincent Bach 氏を初めとする過去の偉大な先駆者からの影響を否定しません。彼らの、金管楽器の発展に掛ける情熱はまさしく本物です。BEST BRASS は彼らの情熱を受け継ぎ、金管楽器とその音楽の発展のために最善を尽くすことを使命だと考えています。